

# CISCO SYSTEMS CAPITAL

Case Study



慶應義塾大学

<http://www.keio.ac.jp/index-jp.html>

## テクニカルサイクルに合わせ、投資コストを抑えて早期リプレイス キャンパス ネットワークを支えるファイナンス ソリューション

教育機関である大学ではその性格上、常に最新の IT 環境が求められています。

しかし限られた予算で、常に最新の機器を導入するのは難しいもの。

低コストで、かつ短期間で機器を入れ替える、そういった理想的な運用はできるのでしょうか？

慶應義塾大学は、その解決策としてシスコシステムズキャピタル株式会社 (以下、シスコキャピタル) のファイナンス プログラムを選択しています。

研究機関としてはもちろんですが、多くの学生を有する大学では大規模、かつ先進のネットワーク環境が常に求められています。また少子化が叫ばれる現代では、学生へのより良い教育環境の提供という意味でも、高度な IT 環境は意味合いが大きいといえるでしょう。

慶應義塾大学は 2008 年に創立 150 年を迎える、日本におけるリーディング スクール。湘南藤沢キャンパスを始めとして、情報化でも最先端を走る大学であり、シスコシステムズ株式会社 (以下、シスコ) と包括的なアライアンスを結んでいます。高い信頼性を誇る IT 環境を導入するにはどうしてもコスト負担が高くなり、しかもテクノロジーの発展が早いこの世界では、一度導入した機器を 10 年間使い続けることは非常に困難です。

ローコストとテクノロジーの進化に合わせたリプレイス、それを両立したソリューションは存在するのでしょうか？慶應義塾大学は、シスコキャピタルのファイナンスプランを選び、実現しています。



### PROFILE

#### 慶應義塾大学

所在地: 東京都港区三田 2-15-45 (三田キャンパス)  
創立: 1858 年  
学生数: 約 28,000 名 (大学学部)、  
約 4,200 名 (大学院)  
教職員数: 約 5,000 名  
(教員: 約 2,300 名、職員: 約 2,700 名)

1858 (安政 5) 年、福澤諭吉が開いた蘭学塾が慶應義塾の始まり。日本における私立大学第一号であり、現在では三田・日吉・信濃町・矢上・湘南藤沢など複数のキャンパスにおいて文・経済・法・商・医・理工・総合政策・環境情報・看護医療学部を擁している。1990 (平成 2) 年に開設された湘南藤沢キャンパスは高度な情報化が行われ、現時点では国内最高の IT 環境が整備された大学のひとつでもある。2008 (平成 20) 年には創立 150 年を迎え「未来への先導」と「独立と協生」をキーワードとし、新たな挑戦を開始している。



シスコシステムズ株式会社  
エンタープライズ営業 公共営業  
官公庁第3 営業本部  
文教担当  
アカウントマネージャ  
米谷 昌己



シスコシステムズ  
キャピタル株式会社  
営業本部  
エンタープライズ営業部  
シニア リースアカウントマネージャ  
岩元 美樹



慶應義塾  
ITC 本部 (インフォメーション  
テクノロジーセンター)  
係主任  
林 貞孝 様



## 現代の教育環境にネットワークは不可欠 親和性・拡張性の高いシスコ製品が中核に

高度な情報化が進む大学の中でも先進の IT 環境を導入している大学として知られている慶應義塾大学。Cisco Catalyst LAN スイッチ 6500 シリーズを中核とした ネットワークをバックボーンに、各キャンパス間の通信をはじめ、学生向けにレポート提出や教材などの電子配布などが行われています。また、図書館などキャンパスの広範囲で Cisco Aironet 無線 LAN アクセスポイントなどによる無線 LAN 環境も配備され、シングル サインオン の認証機構によるセキュリティ強化を目指しています。

このように充実したネットワーク環境が整備されている慶應義塾大学ですが、学内ネットワークの基本コンセプトを考案した慶應義塾 ITC (インフォメーションテクノロジーセンター)本部 係主任 林貞孝氏は「今やネットワークは、電気・ガス・水道・ネットワークという感じで、必要不可欠のインフラです。動画などのファイル容量の大きなものがやり取りされますので、最適なネットワーク環境がなくては、怒られてしまいます」と笑いを見せます。

慶應義塾大学は ITC 本部が設置された三田キャンパスを始め、日吉、信濃町、矢上、湘南藤沢など複数のキャンパスを構えているため、その間のネットワーク構築は非常に重要となります。基幹系のシステムがほぼシスコ製品で構成されている理由として、林氏は次のように述べています。

「以前は他社製品も使っていたのですが、現在シスコ製品に統一している大きな理由はいくつかあります。まず、我々が求めていた機能がシスコ製品にしか用意されていなかったこと、また、我々が使い慣れていたコマンドライン形式で設定が行えるということです。さらにインターフェイスや機能が標準化されているため、いろいろな機器との親和性が高いことや、サービスモジュールによる拡張性の高さもポイントですね。すべてのキャンパスで同時に機器を入れ替えるわけではなく、随時追加、変更していくことを考えると、トータルの安全性という意味でもひとつのベンダーで済むことの意味は大きいです。」

大学は学生の入れ替わりもあり、また業界的にテクノロジーの発展が早い世界でもあります。その意味では将来への投資として、大きなコストを投資して最新の機器を購入し、長く利用するというスタイルはそぐわないともいえるでしょう。

「我々としては機器を購入して 10 年間使い続ける、ということとはとてもできません。基本的にはある程度のネットワーク単位毎に 3 年あるいは 4 年という期間を決め、定期的にすべての機器を入れ替えることが前提となっています。機器選定は『その時々テクノロジーに合わせ、数年分を先取りできれば』と考えています。導入した時点ではオーバー スペックと感じていても、1 年も経てば普通のスペックとなっていますから。」(林氏)

## 将来の中古価値をあらかじめ査定、リース料を抑えた FMV リース プログラム活用により、私学助成金も利用可能

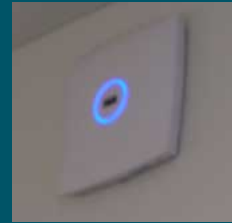
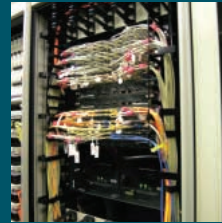
最新の機器を短い期間ですべて入れ替える慶應義塾大学。その入れ替えサイクルは 3 ~ 4 年であり、コストのことを考えるとこれでは最新の機器を購入することは、事実上難しいといえるでしょう。そこで考えられるのがリース プログラムの活用です。

林氏によると、慶應義塾大学でも以前は他社のリース プログラムを利用されていたとのことですが、従来のファイナンス リースの場合、購入した場合よりもコスト的には若干高くなってしまいうそうです。

そこでシスコキャピタルが提案したソリューションが「FMV リース (オペレーティング リース)」。これは契約時点においてシスコ機器の将来の中古価値を査定し、その査定価額を購入元本から差し引いた金額をベースにリース料を設定するリース プログラム。従来のファイナンス リースに比べ、競争力のあるリース料率を実現しています。

シスコキャピタル 営業本部の岩元美樹氏は「サイクルの早い機

Cisco Catalyst 6500  
LAN Switch  
&  
Cisco Aironet



器入れ替えには、シスコキャピタルのプログラムがマッチしています」と言います。

「テクニカル サイクルに合わせた最新のネットワークを保ちたい、その上でコストは抑えるに越したことはありません。FMV リースはそういった慶應義塾大学の希望にマッチしたプログラムであり、他社にはない、特徴あるソリューションです。また意外と知られていないことですが、大学においてはリースの利用も私学助成金の対象になります。その意味でも、お客様のニーズに即したプランをご提案できたと考えています。」

私学助成金については、林氏は次のように述べています。

「助成金で大型ネットワーク装置を購入した場合、償却期間が9年間となってしまいます。それに対してリースならば経常費の枠に入り、最大50%の補助が出ることとなります。光ファイバやUTP配線などは仕方がないのですが、機器に関してはリースを組み、経常費に組み込むことで、コストを抑えた上で短期間での入れ替えが可能となります。これが大学としてはベストの方法だと考えています。」

## 教育機関のネットワーク活用に 最適なファイナンスプログラム

実は慶應義塾大学は、シスコキャピタルがシスコシステムズ株式会社(以下シスコ)から独立する以前、シスコシステムズキャピタル事業部の頃からのお客様。長いお付き合いであり、林氏はシスコキャピタルのプログラムを高く評価しています。

「最初にシスコキャピタルの見積もりを取ったとき、購入するよりもコスト的に低く、あまりの安さに『金額が間違っているのでは?』と確認したほどでした。ほかのリース会社でも、機器を下取りするいわゆるアップグレード的なプランがありますが、これは助成金の関係で利用することができません。シスコキャピタルのプログラムは、短期で機器を入れ替える、我々には非常にマッチしています。また各ベンダーには常に新製品のことを質問していますが、シスコは新しい製品が出るタイミングですかさ

ず説明に来てくれます。またUSのエンジニアと直接意見交換ができる場を用意していただける点もありがたいです。開発者と利用側が直接話す機会はめったにないので、これはお互いにとって非常に有意義だと感じています。2007年の秋には一部機器のリプレイス時期を迎えます。10Gbpsへの帯域増強、IPv6の拡張などを考えていますが、シスコはいつも最適なソリューションを提供してくれるので、大いに期待しています。」

慶應義塾大学担当であるシスコの米谷昌己氏は次のように言います。「慶應義塾大学様のネットワークは、教育機関として国内外でもトップクラスです。従来からキャンパスのネットワーク構築と、ネットワークエンジニアの育成プログラムを通じてサポートしてきたシスコとの間で、ネットワーク機器の提供ならびに運用、保守、ネットワーク技術者の育成を目指す“シスコ ネットワーキングアカデミー”の提供、さらに最先端技術に基づく共同実証試験を行う包括的なアライアンスを締結したということもあり、単なるユーザとしてではなく、共同で最新のネットワークを開発、構築するというスタンスでお付き合いいただいております。シスコキャピタルの『FMV リース』を活用し、その時々のテクノロジーに合わせ、先取りかつ安定したシスコシステムズ製品を導入していただいております。同じように先進のIT環境を構築、活用したいと考えているお客様にとって、シスコキャピタルの存在は大きな意味があると考えています。」



# CISCO SYSTEMS CAPITAL

## シスコシステムズキャピタル株式会社

住 所：東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー

T E L：03-6434-6622 (代表)

設 立：2001年(平成13年)8月27日

資 本 金：6億円

主要株主：米国Cisco Systems, Inc. 100%出資

事業内容：総合リース業 他通信機器、周辺機器のリース、レンタル及びその他ファイナンスサポート  
及び中古品の販売

U R L：<http://www.cisco.com/jp/product/lease/>

シスコシステムズキャピタル株式会社は、シスコシステムズの製品・サービスにおけるさまざまなファイナンスサービスを日本のお客様にご提供いたします。柔軟なリース期間設定、解約オプションの提供、他社製品からの移行など、ユーザ企業の皆様に有利なファイナンスプログラムを提供するとともに、お客様のネットワーク投資に関するご相談を承り、最新のネットワーク・ソリューションで競争力強化のお手伝いをいたします。

©2007 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.

Cisco, Cisco Systems, および Cisco Systems ロゴは、Cisco Systems, Inc. またはその関連会社の米国およびその他の一定の国における登録商標または商標です。

本書類またはウェブサイトに掲載されているその他の商標はそれぞれの権利者の財産です。

「パートナー」または「partner」という用語の使用は Cisco と他社との間のパートナーシップ関係を意味するものではありません。(0609R)

この資料の記載内容は2006年11月現在のものです。

この資料に記載された仕様は予告なく変更する場合があります。



シスコシステムズキャピタル株式会社

<http://www.cisco.com/jp/product/lease>

〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー

TEL：03-6434-6622

電話でのお問い合わせは、以下の時間帯で受付けております。

平日 10:00～12:00 および 13:00～17:00